

第1回統合・再編説明会の概要

長島町教育委員会は、7月から9月にかけて、獅子島を除くすべての小学校区で説明会を実施しました。会では、出席した保護者などから、統合・再編についてさまざまな意見が出されました。

○が推進意見、▽が見直しを求める意見です。

【田尻会場】

7月15日 参加者28名

○子どもたちの健全育成を考えながら、学校統合は進めて欲しい。

▽校舎を新築するのであれば、長島高校跡地にこだわる必要が無いのでは。

(教育長) 長島高校跡地は敷地が広大で、バスが安全に回転でき、多くの部活動が実施できるスペースがある。

▽統合しても規模があまり変わらないようであれば、統合する意味はあるか。

(教育長) 学校同士の交流を続けていく。中学校が統合すれば教員数が約2倍となり余裕ができるため、小学校に出向き授業をするなどの交流を図りたい。

▽行事など、学校を中心に地域がまとまっている。学校が無くなると空洞化してしまう。

(教育長) 子どもたちはそれぞれの地区に住んでいる。これまでも同様、地域で子どもたちを見守っていきけるよう工夫したい。

【川床会場】

7月16日 参加者26名

▽なぜ平尾小学校だけが統合されずに残るのか。

(教育長) 小学校は、現在の中学校区ごとに統合するという考えである。

▽長島高校跡地の整備費用は、13億円必要と聞く。2億円あれば現在の学校を増築することができるのでは。

(教育長) 増築しても、老朽化が進んでいる。補修や建て替えを考えると莫大な予算が必要となる。

▽鷹巣地区では、鷹巣中学校を残して欲しい旨の陳情書が出されたと聞いているが、どうするつもりか。

(教育長) 鷹巣地区からの陳情書はいただいているが、一方で、平尾校区からは、答申どおり進めて欲しい旨の要望書もいただ

いている。

【鷹巣会場】

7月17日 参加者94名

▽なぜ鷹巣地区ではなく、長島高校跡地だったのか。

(教育長) 鷹巣中学校となると、5つの教室が不足することとなる。部活動については、校庭の広さを考えたときに、長島高校跡地の敷地であれば、野球やサッカーを同時にできるスペースが確保でき、子どもたちも思い切り活動ができる。

▽旧町に1校ずつという考えで、その後段階的に移行すべきだ。

(教育長) 鷹巣中学校の生徒数の推移は、ほぼ横ばい。旧長島町の中学校を合わせても1学年に1クラスしか維持できず、現状と変わらない。そうすると、現在、他の学校でも同じだが、複数の教員が、免許外教科(専門外)で授業をすることとなる。

▽経済の中心は鷹巣であり、なぜ鷹巣から中学校を無くすのかわかりにくい。統合が誰のためなのか。

(教育長) 学校の統合・再編については、あくまでも子どもた

ちの将来のためで、この方向が一番良いと考え進めている。

▽鷹巣中学校と川床中学校が統合となったら、約180人の生徒がいる。この人数では、行き届いた子どもたちのために教育ができないか。

(教育長) 旧町に1中学校では教育ができないということではない。物的環境、人的環境も子どもたちの将来を見据えてできるだけ環境を整えたい。

【伊唐会場】

7月23日 参加者10名

○1集落に1学校であるため集落として統合に賛成することは難しいが、勉強するのは子ども。集落のために子どもを犠牲にできない。

▽伊唐は、1集落に1小学校。愛着心は他の地域の考え方は比べものにならない。集落で決をとった結果、統合については反対多数だった。

(教育長) 1集落に1小学校ということでは愛着があることは承知している。その気持ちを考えてながらも、さらに大きな集団の中で子どもたちを育てるとい

をしている。

【本浦会場】

7月28日 参加者14名

○鷹巣中は免許教科外の教科を教えている先生もいる。そこは納得いかない。大規模とはいえないかもしれないが、私は4校が1校に統合することに賛成している。やはり専門の教員が教えた方が子どもたちも理解を深めることができる。

○本浦は、平成27年度の統合が決定しており、他の学校も答申どおりに進めて欲しい。

【平尾会場】

8月1日 参加者99名

○あの広大な高校跡地、あのような面積の学校用地は長島に他にない。

○長島高校が統合された当時、指江でも鷹巣でもなく、交通アクセスなどを考慮した上で平尾に決定された。その時代から考えても平尾が旧両町の中心にあったわけだが、現在の交通アクセスは当時よりもさらに良くなってきている。

○新しい中学校だが、40数年